

## 外国人への情報提供 日本語ボランティア活動と

外国人が日本で生活をする中で、必要な情報が  
必要な時・場所・人に、理解し・対応出来る形で伝わっているでしょうか。  
まして日本語が不自由な人達へはどのように伝わり、理解されているでしょうか。

### 地域の日本語ボランティア教室 は情報の受け渡しの場として なりうるか。

日本語学習支援を求める人達は行政窓  
口・インターネット・口コミ等を通して日  
本語ボランティア教室の情報を得ています。

#### 日本語ボランティア教室は

日本語に不自由を感じる人々に対して、  
日本語学習を支援する場

日常生活、習慣、文化、観光など幅広  
い分野の情報を提供する場

参加者同志の交流・コミュニケーション  
を通しての居場所

外国人が求める情報を提供出来る場  
です。

**活動の中で必要な情報とは何か、(学  
習者から求められるモノ、学習者に知ら  
せたいモノ)**

教材、自主教材(地域性を生かした)  
その他生活に密着した資料等があります。

学習支援活動の中で、日常の生活情  
報、地震への対応、地域社会の見学など  
実践的な活動が行われています。

最近ではWeb上で各種の情報が得ら  
れ、副教材や日本事情の説明、会話の種  
等として活用出来ます。

これらを学習者の状況に応じ、如何に  
使用し・伝えるか、またそれらを備える  
方法・場所・手間などの工夫も必要です。

国際化社会の中で、行政では外国人へ  
の情報提供の場として、日本語ボラン  
ティア教室に期待しています、皆様の教室  
ではどうでしょうか。

### 外国人が生活情報を どのように得ているか

上位から、人づて(口コミ)、日本語の  
テレビ放送、パソコン通信・インターネ  
ット、日本語以外の新聞・情報誌、日本  
語の新聞・情報誌、行政の相談窓口・広  
報紙、NPO・NGO・市民団体等とのデ  
ータがあります。得たい情報内容が多岐  
に渡り、必ずしもこの順番ではないでし  
ょうが、外国人のための情報を提供する場  
所と内容を考えてみる必要があります。

即ち 行政、公共機関、地域施  
設・地域団体、地域のネットワーク、  
地域住民

等が互に情報の発信方法を工夫する必  
要があります。

### 外国人に行政の発信する情報が 必要な人に適正に・効果的に 伝えられているか。

入国時、行政窓口での在留諸手続・届出  
時、必要な生活情報が伝えられる筈です。  
くらしの情報(ゴミの出し方、電気・水  
道・ガス、銀行・郵便局、住宅、交

通)、健康・福祉・医療、出産・育児・  
教育、仕事・年金・税金、スポーツ・観  
光・文化施設など。また緊急時・災害時  
への対応として、交通事故・交通障害、  
火事・救急、地震・台風・水害、防犯な  
多岐に渡っています。

しかし外国人へ 平時の生活関連情  
報、 災害・事故等緊急時の情報等が必  
要な人に適正に・効果的に伝えられてい  
ないのが現状でその伝達方法を模索して  
いる面もあります。

最近、行政・自治体では多言語の生活  
情報(印刷物・ホームページ)が発行・  
発信されています。これら情報の提供方  
法(担当場所・内容・言語・作成日)が  
自治体によってまちまちです。

東京都では区市町村が行っている外国  
人への主な生活支援一覧(行政情報、生  
活情報等、保健・医療・福祉情報、その  
他の情報(生活一般相談、防災、日本語  
教室、外国人との交流)をリストアップ  
しホームページに掲載しています。

### 最後に

TNVNでは日本語ボランティア教室で役  
立つ情報について、地域の日本語ボラン  
ティア教室の状況を調査し、その情報の  
入手方法・発信方法を考えてみます。

(梶村 勝利)

# 多文化共生社会に向けて

寄稿

東京都国際交流委員会

阿部 祐一



## 外国人住民の定住化

東京の外国人登録者数は、2006年1月現在で364,653人となり、人口の3%に届く勢いであり、この10年で約40%も増加しています。地域により外国人住民をめぐる状況は大きく異なりますが、人口の10%を超えている地域もあるなど、定住化がますます進んでいます。

このように外国人住民が増加するのに伴い、様々な生活上の問題が生じ、言葉の壁により外国人支援サービスなどの有用な情報が伝わらず、外国人の生活に不便、不安を感じる状況が多く見られています。また、言葉や文化の違い、生活習慣などの違いから地域住民との間で、生活ルールや規則をめぐるトラブルなどの問題が多く発生しています。

2005年に東京都国際交流委員会が実施した「在住外国人アンケート調査」によると、仕事・住まい・ことば・健康・教育・文化・子育てなどについて、多くの問題を抱え困っていることが明らかになっており、必要な情報がなかなか入手できないのが実態です。このような現状から、外国人が多く住んでいる地域では多文化共生社会に向けて、多言語による生活情報の提供やその子どもたちへの就学・学習支援などが重要な課題だと思えます。

## 効果的な情報提供

このように、外国人住民への生活情報がなかなか伝わらない現状を踏まえ、東京都国際交流委員会としては、外国人住民に対して効果的な情報提供と普及啓発を行うため、ホームページに国際交流・協力の情報誌「れすばす」を掲載し、困ったときの対処方法などの情報を提供しています。また、ホームペ

ージ上に生活情報や災害時情報などの生活ガイドを分かりやすく解説し、多言語で掲載する計画を進めており、外国人住民への情報提供を充実強化する予定です。そして、問題となっている子どもたちへの就学・学習支援などについては、民間の外国人支援団体等と共催で「国際化市民フォーラムin TOKYO」などを開催し、問題点の抽出や解決策について議論する予定です。さらに、外国人住民が抱える日常の在留資格、結婚・離婚、教育など様々な問題を解決するために、都内の国際交流協会、NGO、専門家団体、区市等とネットワークを組み、多言語で相談できるリレー相談会を年間17回実施していますので、ぜひ知りあいの外国人にPRしていただきたい。

## 多文化共生のまちづくり

今後、外国人住民がますます増加すると思われませんが、人数の多少にかかわらず自分の地域に住んでいる文化的背景の異なる人々とのかかわりをどう持って、どう共生するかを考える必要があります。どこの地区にどこの国の人が住んでいるかはなかなかつかめないのが現状であるため、住民同士の交流がなかなか進まず、多くの問題が生じトラブルの原因となっています。地域で日本人と外国人、外国人同士が交流し生活してゆくことは、大変難しいかもしれませんが、外国人住民も生活者であり地域住民であることを理解することがとても大切です。

そして、多文化共生のまちづくりに向け、日本人住民の意識啓発と外国人住民の地域への参加を進めることや、言葉や文化等が違って同じ住民として新しいまちづくりを積極的に行うことが重要であり、多文化共生を実現することが地域の安定に繋がると思えます。

# \*わたしの国のおまつり\*

## 中秋おまつり



グエン・トウイ・クイン・ニユウ(ヴェトナム)

早稲田奉仕園日本語サークル(新宿区)

## \*ランタン

竹を小さく切って、いろいろな色の透明紙で糊づけして、サイズと形が作られます。たとえば星、鯉、ちょうちん、兎、ボート...これらは大変農家の生活に密着しています。ランタンの真ん中に小さい口ウソクを挿し、火をつけると、透明紙のおかげで光がきらきら見えます。

中秋の夜、家族が集まって、おいしいケーキを食べながら空の月を見ます。一方、子供たちは嬉しそうにグループになってランタンを持って歩きながら歌を歌います。

## \*ユニコーンダンス

いろいろなところで賑やかなユニコーンダンスを演奏します。ユニコンは四つの超自然創造物の二番目(一角獣)で優しく、神話的な動物です。体はシカ、蹄鉄、牛の尻尾、広い口、大きい鼻、額の真ん中に角がある、背中に毛が5色、おなかの毛が黄色。初めて見ると、ライオンみたいに見えるのでライオンダンスと呼ばれることもあります。

紙で作られるユニコーンの頭を一人がかぶり、太鼓の音でこの動物の身ぶりで踊ります。後ろのうなじから布で長い尻尾を持っています。先頭にはユニコーンを守るための棍棒を持った人、さらにどらを持った人や五色旗を持った人もいます。

ユニコーンダンスのグループは前に、大人と子供は後ろから一緒について行きます。その日は家族それぞれ高いところにお金を置きます。どのグループがお金を取れるか、努力に見合った賞品になり、大変やりがいがあり、やればやるほどいっぱいお金がもらえます。まず、赤い布やピンクの紙の中にお金を入れて包みます。それを梁にかけます。ダンスするうちに二人または三人で高いところのお金をとります。ユニコーンダンスは力ばかりでなく上手な武術も必要です。一方、勇気、活発、堅持も必要です。

ベトナム人にとって家族が集まってケーキを食べ、ランタンを持って遊びに行き、ユニコーンダンスを見ることが大切なまつりです。それは人間関係がよくなるうえに、暖かくて深い心も表すと思います。

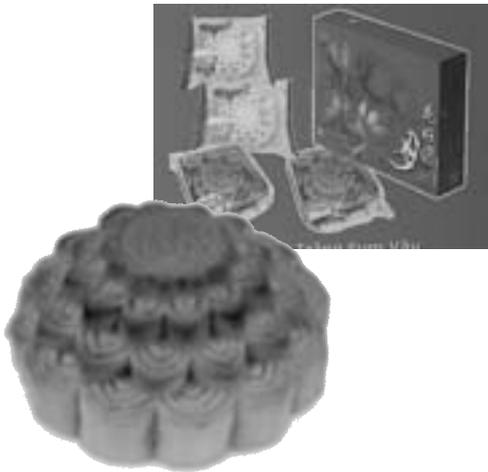
中秋おまつりは旧暦の8月15日です。今年の中秋は新暦の10月6日。東南アジアの国々で行われますが、国の風習と文化によって行うことが違うと思います。

それでは、ベトナムの中秋おまつりはどうでしょうか？

2000年前からこの古伝風習があるそうで、子供たち向けのおまつりです。1年中親たちは仕事でいつも忙しく、子供たちと一緒に遊ぶ時間があまりないからです。

中秋おまつりという、まずケーキとランタンです。15日前に、ケーキやランタンの作り方を子供たちに教えるので、忙しいですが楽しいですよ。

## \*中秋ケーキ



banh thap cam (バンタップカム) と banh deo (バンデオ) の二種類があります。月のように丸い形で、“集まる”という意味です。

banh deo は米粉で作り白くてしなやかです。外面には浮沈の華文があって、8枚から10枚までの花びらのように咲いている形が出ます。切ると中はゴマ、かぼちゃのジャム、ハスジャム、焼きスイカの種子、杏仁が入っている。味は甘くて、よい香りです。

Banh thap cam はきつね色で、直径7~8センチ、高さ2.5~3センチ。中は、かぼちゃのジャム、焼きスイカの種子、卵の黄身、焼き豚肉、焼きとり肉、腸詰めとさまざまな物を合わせて作るので“什錦”と呼ばれます。普段ひとつの箱に二つ banh deo と二つ banh thap cam が入っています。

みんなは感謝、愛情を表すためにケーキを家族や同僚、友達などと交換します。

# 日本語ボランティアは日本語を母語としない子どもたちのために何ができるか

TNVN 林川 玲子

6月18日(日)午後1時より、しんじゅく多文化共生プラザで第2回ワークショップが開かれました。第1回の折、特に関心を集めた問題「学習支援をどのように進めるか。日本語指導中心?教科指導中心?それとも?」をテーマに、30人余の参加者が4つのグループに分かれ、予定時間を1時間近くも超える5時近くまで熱心な話し合いがもたれました。

## 第1グループは

「日本語指導を中心に」中野区で子どもたちの指導をしている中山真理子さんを囲んで話し合いました。(報告 福田浩人さん)

まず永住するのか帰国するのか、背景を知る必要がある。その上で教科をわかるまで教えるのか、社会生活が普通にできるようになるまで教えるのか考えなければならない。永住を希望する場合は日本の学校へ通うことになるが、その子が母語で思考しているか、日本語で思考しているか考慮することが必要。中学生程度で日本に来た場合は母語で思考できるが、小学校低学年で日本に来ると、まだ母語で思考することができていない。その場合、日本語で

思考できるようにしないと、学校での勉強についていけなくなる。

また、子供も大人同様に体系立った日本語を教えないと日本語力が養えないのだが、小学生向けの良い教材がなかなか無いのが現状である。学校、行政からの要請でボランティア派遣を行っているが、ボランティアは自分で工夫しながら対応している。学校・行政は子どもの指導システムを持っていても、それをボランティアに伝えていない。学校長や教育委員会はどのように考えているのか。子供の支援は、日本語はもちろん、教科支援も責任をもってやらなければならないが、それをボランティアだけに任せるのは問題である。日本語ボランティアは日本語学習支援の方法については勉強しているが、教科学習の支援方法については勉強の場がない。このような現状でボランティアにそれを求めるのは無理ではないか?

## 第2グループは

墨田区で高校受験を目指す中学生や15才以上の子どもたちを支援している藤田京子さんを核に、「教科指導を中心に」どのように指導、支援すればよいか、話し合いました。

## 第3グループは

「まず日本語指導から入って、教科指導につないでいく」方式で、大田区で子どもたちを支援している飯島時子さんの事例を中心に話し合いました。(報告 岩城奈都子さん)

子どもたちは日本語を学ぶとともに、日本語で教育を受けなければならない。彼らが将来日本に永住することを選択する可能性があるならば、少なくとも高校卒業程度の教育が必要。

特に、母語で論理的な思考をする能力が十分に形成されていない子どもたちにとって、母語も日本語も不十分という状態で教科学習をしていくことは非常に困難が伴う。教科支援に関しては各自自治体の対応が大きく異なる。教科支援のクラスを設けているところもあれば、フォローをほとんどせず、ボランティアに任せきりのところもある。子ども一人一人のニーズの違いが行政としての対応をしにくくしている面もあるが、いずれにしても、子どもたちには基本的な生活日本語の習得とともに、学習言語としての日本語の習得が急務。学習言語を生活言語にどのようにプラ

スしていくのが最適なのか、一人の人格を育てるといった視点においても、これからはますます重要になるだろう。

そうした様々な需要にきめ細やかに対応できるのは、地域密着型のボランティアならではの。今後、ボランティア同士の横のつながりを密接に行うことで、様々なノウハウの共有や、行政への働きかけを進めていく必要がある。

## 第4グループは

八王子市で活動する齊藤広子さんを中心に「その他いろいろ」のケースについて話し合いました。(報告 岩佐幹彦さん)

参加者は、通訳を兼ねた日本語支援、学校のサークル活動としての日本語支援、高校受験をめざして数学ほかの教科指導、日本語学校入学等に合わせた支援、ボランティア団体をつなぐ連絡協議会を結成して受験生(日本語・教科両方)の支援活動等、さまざまな係わりかたをしている。

子どもは自らの意思ではなく、親の事情によって来日(在日)し、日本語学習(生活)を余儀なくされており、日本語指導、教科指導の如何にかかわらず、日本語学習の前提として、「子どもの学習意欲の引出し・維持・継続」という大きな課題に直面する。とくに中学校では教科レベルが上がるためについていけず、学習意欲が減退する子どもが多く見受けられる。その上で、学習意欲の引出しや勉強の動機づけとして「子どもに

自信をもたせる」ことにポイントをおき、「遊びの要素を取り入れた日本語理解の場の設定」、「得意分野(学科)を大きく引き伸ばすことに重点をおく」、「子どもを元気づけるために、同級生付き添い(ペア)の友達関係をつくる」、「子どもの不満解消、ストレス発散の方法として、割り切って日本語を離れた学習(数学等他教科)を行う」等、状況に合わせたさまざまな対応が報告された。

また、行政、学校、親等と関わりにおいても、関係を上手に持続している例がある一方、行政(教育委員会等)は子どもの実情を知らないとの意見が出た。行政の人事異動のおかげで活動場所と助成金の支援を受けた幸運な例もあるなど、地域、状況によっていろいろなケースがある。概して行政は消極的な対応になりがちだが、ボランティアの学校側との良好な信頼関係が行政を動かす契機になる。つまり「すべては人から」との報告がされた。

「今回のテーマ、学齢期の子どもたちに対する日本語教育は非常に興味深いもので、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。十年以上にわたり地域と密着して活動していらっしゃる諸先輩がたの姿勢には学ぶべきところがとても多かったです。」という感想があった一方、小学一年生の支援をしている参加者からは「皆さんの体験談が聞かせていただけるかと参加しましたが、そのような低レベルのワークショップでなかったので少し残念でした。」という声もありました、子どもに係わり始め

た、またこれから係わりたいと考えている人たちは、ベテラン経験者からいろいろ教えてもらえると期待して参加したことがわかります。また、藤田さん(第2グループ)は子ども支援をするボランティアがもっと必要、講習会などで知識、ノウハウを仕入れて活動に入ってきてほしいと言っています。適切な講習会の開催が望まれているのではないのでしょうか。

(紙面の都合で提出された報告を短く編集させていただきました。ご了解ください。文責 林川)



目的はどうか、日本語指導への需要がある限り、私達ボランティアによる支援も続きます

## 江戸川ユニオン日本語教室

代表 晝間 勝子(江戸川区) <http://edoawa-unlon.hp.inforseek.co.jp/>



江戸川区の公共施設の広い会議室を会場としていますが、16年経った現在は座席も不足がちの大盛況ぶり。又、現在までに参加した学習者の国籍は70ヶ国にのぼります。それだけ地域に貢献してきたという思いです。

俗に発展途上国と称される国々から、様々な種類の滞在資格所有者が大挙流入した頃、「いつでも、誰でも、一人でも加入出来る労働組合—江戸川ユニオン」の中に、日本語が出来ない為不利な立場にある外国籍住民への支援として立ち上げられた教室です。

ここ数年はIT関係や日本人の配偶者を持つ学習者などが多くなり、創設当初とは大分様変わりしました。世相を反映してると言えましょう。

日本語指導が第一であることは言うまでもなく、日本での暮らし方、伝統、習慣などの説明も必要であり、桜の季節の花見、夏の花火大会見物等では只楽しむだけでなく、その歴史伝統などを説明

する...と、ちゃんと「仕事」も忘れません。更に初夏と秋のピクニック、そして一年の締めくくりの忘年会等では、共に飲み語り、アルコールの勢いによって容赦無く、時には教科書では学べない類の日本語にも曝され、学習者には生きた日本語を学ぶ良い機会になっているようです。また、帰国後、母国で日本語学校を開校という嬉しいニュースも届くようになりました。

学習者の増加と共に、教室では一対一の授業という原則を守れぬ現況にあります。学習者、ボランティア共に、当教室のHP(\*)を見た上での参加も少なくありません。日本語を話せる外国人が珍しかった数十年前からは想像もつかない昨今です。目的はどうか、日本語指導への需要がある限り、私達ボランティアによる支援も続きます。政治家に任せず、一般国民による素顔の国際交流に繋がれば本望です。

### 会員団体紹介

Nice to Meet You

### nice to meet you

地域に根ざした日本語学習支援

## 東久留米にほんごクラス

武貞 明子(東久留米市)

東久留米にほんごクラスは、平成10年に市内で開催された「国際ボランティア養成講座」を受講した有志が発起人となって誕生しました。地域で暮らす外国人の日本語学習を支援して今年で8年になりますが、これまでにクラスを訪れた外国人は約260名、30カ国に及びます。

にほんごクラスは月3回、火曜日の午後7時～8時半に開催しています。入門から上級まで多様なニーズに応えながら、1対1の個人指導を中心に日本語学習の支援を行っています。5年、6年と続けてクラスに参加している学習者もいます。家族全員で参加してい

る学習者もいます。

また、茶道、箏、絵手紙、ひな祭り、七夕、盆踊りなど日本の伝統文化の体験学習も盛んに行っています。地震・災害時の避難の仕方、ゴミの捨て方、救急救命法など、地域に密着した講習会も開催しています。

発足当初の「グローバル化、国際交流」という言葉から、今は「地域に暮らす外国人との共生」がキーワードとなり、日本語学習支援の果たす役割もますます大きくなってきました。今年度は、地域のボランティアだからこそ

できる活動を充実させ、新しい社会のニーズに対応できるようクラス運営の見直しを行っています。この夏には、小学校において親子参加型の夏休みジュニアコースを初めて実施しました。

世界の国々の人たちと学び合い成長し合う楽しさにあふれた「にほんごクラス」です。



学習者の声

夢をかなえること

サンチエス・ロシオ・ペルー  
武蔵村山日本語の会(区)

私は14年前にペルーから日本の企業の給費留学生として初めて来日しました。6ヵ月余りの間、日本の生活はとても快適で人びとも親切でした。そのとき、経済的な問題を抱えるペルーを離れて日本で生活することを強く希望しました。再び来日したときはまだ日本語の理解力は20%以下でした。それから仕事をしながら一人で長女を出産しました。毎日寂しさと不安で押しつぶされそうでしたが、長女は私に生きる力と勇気を与えてくれました。また日本でできた多くの友達に支えられて4年間、ペルーの夫と離れ離れの日々を耐えることができました。そして夫と再会でき、次女が誕生し、私たちはやっと4人でひとつになることができました。

私たちの2人の娘は日本人として生まれ育ってきました。日本での教育や課外活動はペルーでは到底得られない多くの機会を娘たちに与えてくれました。その子育ての中で私たちも日本語を学んできました。

そしてこの生活を続けていくために避けられ

ない時がやってきました。ある日、夫は仕事に行ったまま、帰りませんでした。入管に収監されたのです。私たちは娘たちの未来のために永住権をかけて全てを捨てる覚悟を決めました。それからというもの、私たちが再び4人で日本で生活できるようにどれだけ多くの日本の友達が力になってくれたことでしょうか。日本語が私たち家族と全ての友達を結びつけてくれたのです。いつも温かく、ときには厳しく励ましてくれた日本の友達にどれだけ感謝しても、足りません。

今年6月14日、私たちは日本で生活することをついに許可されました。これからもっと日本語を勉強するために、来年から大学の講座を受講します。読み書きをもっと勉強して娘たちの母国である日本をより深く理解したいと思っています。



ボランティアの声

文化や習慣を理解する大切さ

青木尚美  
やさしい日本語(江東区)

現在、日本語教室に携わっている私も、ブラジルに住んでいた5年間はポルトガル語の学習者でした。当時、文法や句型を学習し、単語を覚え、言葉が話せるようになればなるほど、自分の話すポルトガル語に違和感を感じていました。それが習慣上の違いによるものだと気がついたのは、暫くしてからのことです。例えば、日本人は他人に物を頂いたり、ご馳走になったりすると、次に会った際、「先日はありがとうございました」というお礼の言葉で会話を始めます。が、ブラジルでは、過去の



事柄はその時に完結しているのです、このような言い回しはありません。わざわざ終わった事を感謝する私の話し方は、彼らにとって、奇異に感じられたことでしょうか。しかし、日本の習慣が根付いている私にとって、「先日は～」の言葉を省くには、当時、かなりの勇気と時間を必要としました。

日本語を教授するという立場になり、あの頃自分が感じた文化や習慣の違いに学習者が躊躇する場面を目にする事があります。そのような時、私は日本の文化や習慣が学習者に理解されるような授業を行っているだろうか?と自問します。文化や習慣を理解できれば、生きた日本語はぐっと身近になると思うからです。

日本語講師として、言葉だけでなく、日本の文化や習慣も正しく伝えることができる様、自分自身も勉強しなければと強く思うこの頃です。



### ニュースレターの記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。前号で「男性の活動の場」、本号では「子どもの学習者」に関する記事の特集しました。掲載記事についてのご意見・希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

### TNVN スタッフ募集 !!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

### TNVN への入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。  
(送料90円切手同封)

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

## Column

### ◆マンガの力

昨今、日本語学習用にマンガを取り入れた教材が市販され、これに限らず学習の場でマンガを教材や副教材として使用する方々が増えています。

この8月9日に平成18年度文化庁日本語教育大会が開かれ、「日本語教育への漫画の活用」をテーマに基調講演「漫画の力」とパネルディスカッション「日本語リソースとしての漫画の活用」が行われ、活動の中で漫画を活用している一人として参考になりました。

日本の漫画がなぜ世界の人々に愛されるのか。子ども向けの文化が大人にも共有出来、手法が演劇的から映画的(クローズアップ)

へと進み、複雑な表現が折り込まれている。

漫画を教材に活用する事は学習者のモチベーションを高め、継続性を強める。

漫画は画像と言葉の世界で書かれた話し言葉、未分化の音声言語、擬態語・擬声語の多用で情報量が豊富、特徴は面白くて飽きない、だけではなく、誇張と省略で自分の伝えたい事を表現する。文学の領域へ参入.....

まだまだ書き切れませんが文化庁施策の広がりを実感しました。(K.K)



### ◆保育付き日本語教室15年

私達が活動しているパルシティ江東には「保育室」があり、パル主催の講座ばかりではなく自主グループでも保育士さんに子供をみてもらえるのはとても有難いことです。他区では、保育士は自分たちでボランティアを探したり雇ったりしなければならぬところが多く、江東区のような例はないようです。残念な事には保育室には20人という定員があり、自主グループにはその半分の10人までしか解放されていないので(05年は8人~3人)子供を預けて日本語を学びたい学習者(たまに男性も)のニーズを満たしていません。入会できた学習者は皆「安心して勉強ができる」と喜んでくれますが、1年待ってやっと入会

できる人もいますし、6ヵ月以上待ってもらうことはめずらしくありません。

また、教室を3ヵ月前に自分たちで予約しなければなりません。9人のスタッフが交代で毎月申し込みに行きますが、他グループと競合すれば籤引き。保育枠が3人しか取れない週もあり、部屋取り当番はハラハラ、ドキドキ。胃が痛くなる思いです。この点は行政に訴え続けて改善してもらいたいと考えています。

それでも毎週のレッスンは楽しい事が多く、『都内随一、区内唯一の保育がついた日本語教室』を続けて行きたいと思っています。

岡田美奈子

### 東京日本語ボランティア ネットワーク事務局の活動

日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日 / 午後2時~4時  
第2、第4 金曜日 / 午後2時~6時

場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp

URL : http://www.tnvn.jp/

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

新会員紹介

正会員

国際日本語コミュニケーション研究所(新宿区)

こんにちはほんご(練馬区)

会員数(2006年8月 日現在)

正会員：77団体 協力会員：47名

賛助会員：4団体

編集/岩佐 幹彦、大木 千冬

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、西岡 暉純、林川 玲子

レイアウト/鶴田 環恵